

油屋町くんち瓦版

編集担当 山之内 宏一
写真提供 Saori 山田

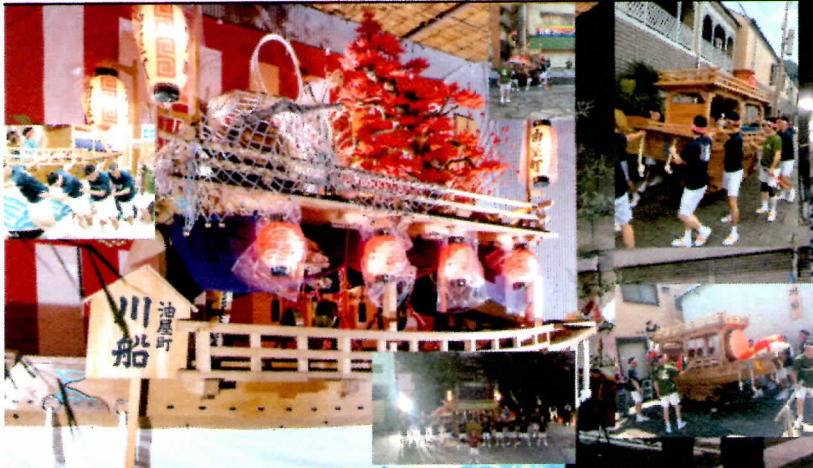
平成28年10月31日 第10版

川船 お疲れ様 ありがとう

舟の流れる中、格納庫の戸は静かに閉められた

「舟のエー もやいを
弁天岩に かけてナー か
けて 大漁の恵比須顔」舟
唄の中、川船は格納庫の中
に納められ、静かに戸が閉
められた。川船お疲れ様。

打ち上げは長崎ホルモン
で行われた。店は貸切で関
係者全員が参加した。みん
な思い思いのくんちの話に
花が咲きた。店の中には笑
い声が絶えなかった。お開
きになった時は、もう午前
一時半を回っていて、驚い
た。六月二十六日に船を出
してから、約四ヶ月間、い
ろいろなことがあったが、
終わってみればあつと言っ
間だった。



川船油屋町を去る

くんちが終わってから、
油屋町の町事務所には御花
を持ってきてくださる早上
先のみなさんの対応のため
に町の方が詰めている。御
花の出だしは順調だ。踊り
に出場した人たちは花御
札に忙しい。庭見せで借り
ていた紅白幕、毛氈、ビー
ル箱などもみんなで手分け
して、返した。後片付けは
しばらくかかりそうだ。そ
んな中、十月十六日に川船
を長崎伝統芸能館に持って
行った。当日は雨の降りそ
うな天気だったので、出し
にビニールシートをかけた。
グラバー園の坂を登る
時は船にロープを掛けて、



庭先件数は雨のため予定より少ない千五百件程度になる

今回の庭先は猛暑や
雨と天候不良の中、囃
子の子供達はよく頑
張ったと思う。特に大
太鼓の三人は、本当に
よくやった。旗持ちさ
みんな引つ張り上
げた。出しが乗った
船は高いので、天井
に注意しながら入れ
た。所定の位置に収
まった川船に御礼を
行って、町に帰った。

